

## 会員報告

### 第30回リハ工学カンファレンス in おきなわ

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

#### 1. はじめに

2015年11月13日(金)～15日(日)、沖縄県総合福祉センター(沖縄県那覇市)を会場に「第30回リハ工学カンファレンス in おきなわ」(以下、リハ工学カンファレンス)が開催されました。

今回のテーマ「技のちゃんぷるー 御万人(うまんちゅ)を支えるテクノロジー」です。リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者がそれぞれの立場から現状と課題について発表を行いました。まさにちゃんぷるー。

私はリハ工学カンファレンスに参加、当事者発表と初めての経験できたことを報告します。

#### 2. 兵庫から沖縄へ

伊丹空港で集合!同じ便で行ったのが兵庫頸損の山本さん、学生のS、M、Hさんと私の5名です。

車椅子利用者が飛行機に乗る場合、機内に入るのに車椅子の乗換えをしなければ搭乗をすることができません。

機内については、乗客同士が通路ですれ違うことも大変なぐらいの狭さです。普段使っている車椅子では座席にたどりつくこともできません。そこで写真のような後輪が取り外せてひじあても邪魔にならないように出来る「搭乗用車椅子」もあります。(写1)



写1 機内に入るときは大きなタイヤを外す  
新幹線、電車なら「補助席または多目的でいい

か!」などと車椅子利用者なら体験されるとおもいます。車椅子だから乗れないんじゃないかなど、私も最初は不安がありました。空港に問い合わせをすれば「お手伝いのお問い合わせ」にて、とても丁寧に対応してくれます。私のように体を支えられない場合でも、リクライニング車椅子を貸してくれるので安心です。(写2)



写2 リクライニング車椅子

#### 3. 車椅子利用者が使いやすい

飛行機を利用する際に、普段から使っている、電動車椅子、介助用車椅子のまま利用できたらどれだけ楽でしょうか。乗り換えによって、その度に衣類のシワ、摩擦による皮膚への負担が心配なことでした。乗り換えることもなく機内に入れたら、多くの障がい者が飛行機を利用しやすくなると思いました。市バスのように座席を折りたたみ、スペースに車椅子のまま利用したいです。

#### 4. リハ工学カンファレンスに発表デビュー

リハ工学カンファレンスは、障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的として、毎年1回開催しています。

私は2日目(14日)に、演題名:重度障害者の住環境改善に関する現状と課題-第4回全国頸損

連・日本リハ工学協会合同シンポジウムの報告と今後の展開-をテーマに発表をしました。

車椅子使用者が快適な生活を送る上で住環境整備はとても重要でありながら、当事者が満足を得るためには多くの課題があります。満足のいく住環境を得られたら、障害者にとって「自分らしさ」と同時に「QOLの向上」へと繋がることで、社会参加しやすくなると思います。

障害当事者や支援者が必要とする情報共有ができていないことも挙げられます。現状は「どこに相談すれば要望に応じた住環境改善がおこなえるのか?」「車椅子使用者にとって、どのような住宅が住みやすいのか?」が解決されないまま障がい者は生活を送っています。障害当事者が必要とする住環境整備について、自ら声を上げ行動していくことで、支援者が必要としている情報になると思います。

障がい者が求めているニーズも個々に違います。障がい者の「生活の選択肢」の確立のためには、専門家との連携と当事者本人がコーディネーターとして積極的に関わることが重要だと感じています。住環境整備を進めていくには課題解決と支援するネットワークの構築が必要と発表しました。

リハ工学カンファレンスに参加して、障がい者に関わっている多くの専門家と意見交換をすることができました。誰も一緒に意見を出し合い、考えることのできる良い機会でした。障がいのある方たちの生活に活かされる技術開発につながると思いました。

## 6. 裏話

発表当日の朝、会場に向かうシャトルバスが道を間違えるハプニング。発表時間ギリギリでの会場到着に発表データの登録もできないまま発表しました。ここまで緊張した経験はありませんでした。発表時間の10分がとても長く、もう頭が真っ白になっていました。なんとか発表を終え、ホッとしたのか体温急上昇と低血糖症状でふらふらでした。せっかく沖縄に来たのだから、やはり「ソーキそば」だろ! ということで、会場前にあるお店に行きました。めちゃくちゃお肉もトロトロで美味しかったです。体調のことを忘れて、本場の味を楽しみました。(写3)



写3 さわやか5人組!

サイダーをイッキ飲み、コンビニにクーリング用の氷を買いに行き冷やしました。結果、熱は下がらないまま懇親会に参加しました。私は、環境が変わると必ずといえるくらい熱を出してしまうんです。体調がピークにきたので、懇親会を早めに出ることにしました。シャトルバスで最寄り駅までの送迎があったので会場入り口まで行くと、出発時間が変更されていました。外は台風のような暴風雨で前が見えないくらいの激しさで、最寄りの路線バス停まで行こうと試みましたが、断念してシャトルバスを待つことにしました。大雨警報発令もありましたが、シャトルバスで最寄り駅に着く頃には雨も上がり、宿泊するホテルの近所の薬局で薬を買って落ち着きました。

## 7. まとめ

私にとってリハ工学カンファレンスでの発表は、これからもリハ工学カンファレンスで発表する第一歩になりました。「自立生活」を決意するきっかけにもなりました。地域生活を自ら経験することも、これからのセルフヘルプにつながると思いました。事故や病気で障がい者になったとしても、そこからどのようにすれば諦めずに人生を楽しむことができるのか。頸髄損傷者だから伝えられることがたくさんあると思いました。

次回は、高知で2016年8月26日～28日に開催されます。私は高知で発表できるように準備をしていきます。みなさん、是非会場で会えるのを楽しみにしています。